

■■■ 2020年度総会報告 ■■■

5月23日、KFCの2020年度総会を開催しました。

今年度の総会は、例年と異なり新型コロナウイルス感染防止対策として、多くの会員に議事委任状をもらい開催したため、参加者の少ない総会となりました。

また例年、実施している総会前の全体学習会も中止としました。

多くの人に支えてもらっているKFCとしては、このようなさびしい状況が早期に改善していくことを切に願っています。

KFCのホームページに事業報告と活動方針などを掲載しますが、総会で承認してもらった2019年度活動報告と2020年度の活動方針について概略のみ報告させていただきます。

まず2019年度事業としては、6月に開設した神戸市が設置し事業運営委託をKFCが受託した「ふたば国際プラザ」事業があげられます。昔からの在日外国人多住地域である神戸市長田区に日本人と外国人が交流し共生していくためのふたば国際プラザを開設できたことは、KFCにとって大きな喜びであり、新たな挑戦でありました。

ふたば国際プラザでは、フリースペース開設など神戸市の委託事業のほかに日本語学習、第三国定住ミャンマー難民支援といったKFCが独自に取り組んでいる事業も提案事業として実施しています。

元二葉小学校であったふたば学舎の一画に設置されたふたば国際プラザは、レトロな雰囲気と隣の公園で遊ぶ子どもの声が響く懐かしい雰囲気のある施設です。新たな拠点としてKFCのこれからの活動に広がりをもたらせてくれると思います。

また新たな試みとして秋に開催した「ランタン縁日」では、モンゴル、ベトナム、中国残留邦人帰国者といった外国人出店者らと地元の商業者が街のにぎわいを作り出すといった事業にも取り組みました。その後、ベトナム出店者がベトナムサンドウィッチ店を開業するといった楽しい展開も生まれています。

KFCが織りなす多彩な事業は、外国人（移民）当事者が脆弱な社会基盤によって陥りやすい底辺への固定化や無力感の蔓延といった負の循環ではなく、サステナビリティ（持続可能性）のある外国人（移民）にも日本人にも力づけするものであったと考えます。

年度終盤には、新型コロナウイルスのパンデミックが世界を覆うなかでKFCの事業もふたば国際プラザの閉鎖、デイサービス利用者の激減、日本語学習や子ども支援事業の中止といった制約と犠牲を強いられる状況となりました。その中でも自分たちのできることを考え、教材の送付と添削、オンラインを使ったミャンマー難民支援、会議開催や遠隔地インタビューといった新たなツールを使った事業にも取り組みました。

現在、中止していた事業の再開を進めていますが、気を緩めず感染防止対策をとりながら事業を進めたいと考えています。

一時的には、来日する外国人が減るとしても日本社会の構造としては、急速に進む少子高齢化と人口減少、労働人口の減少と外国人の流入増加という避けられない状況があります。そのことに対して適切な対応ができていない問題もあります。

見える外国人の増加によって日本は、「民族的同質性」から「コスメティック・マルチカルチャリズム（うわべの多文化主義）」へと移行してきたと社会学者のテッサモリス＝スズキは評しています。

「うわべ」の対応が主流のなかでは、KFCの活動・事業は、現在は稀有な存在であるのかもしれませんが。厳しい道かもしれませんが、人権を基盤においた移民を受け入れてきた（いる）先進国と呼ばれる国で、本来必要な普遍性のあるKFC事業を発展させる広がりをもった2020年度にしたいと考えています。

介護事業部門は、制度改定の波によって厳しい環境に置かれています。それでも弱い立場にある人たちの「寄り辺」となるということを忘れず、各事業、関連機関と連携して質の高い運営していきたいと考えます。NPO部門においては、ふたば国際プラザの実績が評価され、新たに1室、教室スペースの追加運営委託が決定しました。スペースの増設に伴い従前より増して共生のための事業を大きく広げる予定です。

第三国定住ミャンマー難民支援では、新たに生まれた子どもを含め23人の支援に取り組む事業とともに笹川平和財団らの協力を得ながら、全国規模の受け入れ検証を進めていく予定です。また日々の事業に追われ構築出来なかった第三国定住難民支援の「自立」を踏まえた支援の指針も策定していきたいと思っています。

昨年、「日本語教育の推進に関する法律」が施行されるなど大きな環境の変化が起きている日本語支援につ

いてはK F Cの実績を活かし、日本語教育の責任母体と位置づけられようとしている自治体と協力しながらより多くの人により質の高い日本語支援が実施できるよう取り組みをすすめる予定です。

中国残留邦人帰国者、外国ルーツの子ども、技能実習生や特定技能資格の外国人、国際結婚移住者、在日コリアンにインドシナ難民の人たち、K F Cの支援する人たちは多種多様でそれぞれに必要とされる支援があります。すべてをK F Cが提供することはできないかもしれません。それでも阪神・淡路大震災後のガレキの中から生まれ、何も持ちえなかった時から外国人支援の旗を掲げてきた組織としての矜持をもって2020年度の事業に取り組みます。

自治体、教育委員会、企業、大学、財団、保育機関、公立図書館などK F Cの協力機関、K F Cを支えてくれるボランティア、学生、賛助者も年々増えています。

会員や協力者とともに歩むことが、多くの人の「楽しみ」や「しあわせ」になる1年にできるよう努力したいと思います。（金 宣 吉）

■■■K F C日本語プロジェクト■■■

◆日本語教室再開！

K F C日本語教室は、ふたば国際プラザで行っていますが、3月2日～6月1日まで新型コロナウイルス感染防止で休みになりました。6月3日から再開しました。休み前と比べて学習者の方も支援者の方も8割程度の方が再出発してくれています。以前との違いは、休憩のおやつタイムがないこと、個別学習でサランラップ仕切りを挟んでやっていること、窓を開けているので蚊が多いことです。マスクは必須にしていますので、話すときはマスク越しにモゴモゴ？、、、ペラペラ？、、、。三密にならないよう気をつけて、皆さんの協力の元、精一杯がんばっています。

オンライン学習：

4月中旬の話・・・自粛生活に慣れてきた時でした。気にかかるのが久しく会っていない学習者の方や支援者の方のことです。特に一人暮らしの学習者はうまく生活しているだろうか？家にずっといて大丈夫だろうか？と心配です。教室のことも気にかかっていた。このまま自粛生活が長引いたら、オンラインでも開催した方がいいだろうか、、、。事務所で話し合っ5月も休まないといけな状況にならオンライン教室に取り組もうということになりました。

5月・・・連絡がついた学習者4名とスカイプでオンライン教室を開催しました。支援者は2名でした。K F Cの端末で支援者と学習者を招待し、1時間学習支援をしました。13回行いました。始めはアプリのインストールや操作がうまくいかず、2名の学習者には事務所に来てもらって初期設定を一緒にやりました。

1ヵ月やってみて、オンライン学習の一番大きな利点と感じたのは、教室への行き

帰りの時間と交通費が要らないことです。学習内容が会話や読解、文法説明、漢字学習だと対面と同じ学習効果も期待できます。反対に難しかったのは、学習の組み立て方、学習者の反応が十分伝わってこなかったことです。ずっと話し続けておかないといけな切迫感もあり疲れました。その日の学習希望を聞き取って学習内容を決めること、書くことの学習はできませんでした。

6月・・・教室が再開しオンライン学習ストップ。

6月X日・・・午後から降り出した雨は大降りになり、夜の教室の学習者からぞくぞくと休みの連絡が来ました。雨の夜の教室はオンライン学習の方がいいでしょうか？！

日本語支援者メーリングリスト開始しました。

K F C日本語学習支援者のメーリングリストです。K F C日本語プロジェクトからの教室に関する案内、研修会の情報などを提供していきます。参加ご希望の方は奥までご連絡ください。（奥 優伽子）

■■■K F C外国にルーツを持つ子どもの学習支援■■■

◆第三国定住ミャンマー難民子ども支援～オンラインでの学習支援～

コロナの影響で緊急事態宣言が出ている間、第三国定住ミャンマー難民子ども支援として普段行っている学習支援教室も開催できない状況にありました。現在支援を行っている第三国定住ミャンマー難民第9陣の家族には6名の小学生がいますが、小学校も3月から5月まで3か月もの間休みになり、定期的に学校から課題・宿題が出され、各自家で勉強するようにとの指示が出ました。前学年の内容の復習もあれば、これから習うことの予習も含まれており、勉強の進み具合が各家庭に委ねられました。

当初は郵送や家庭訪問時に宿題を見たり個別課題を出したりして支援していましたが、子どもによってはもともと学年に対して算数や国語の学習に遅れがあることに加えて、新しい授業内容を自習で進めていくというのは非常に難易度が高く、また学校の宿題の出し方も、教科書やプリントをあちこち参照しながら進めなければならないなど煩雑で、学習の遅れが更に進んでしまいそうな状況にありました。

そこで、緊急事態宣言下でも一定の支援が継続できるよう、巷で言われ始めていた「事業のオンライン化」を急遽実施することとし、資金面・スタッフ・場所などの調

整を行いました。5月11日から31日にかけて、週5日、一人あたり一日1時間を目安に通話アプリ「Skype」を使って学習支援を行いました。学習者の各家庭へタブレットを貸与して、オンライン学習ができるよう環境整備しました。また、子どもが学習する時間帯には保護者に同席してもらい、学習のフォローをしてもらいました。

いざやってみると、子どもの手元が見つらく筆算などが教えにくかったり、教科書や資料集などで見て欲しいところがあった時に、パソコンの画面に苦労して映し出して「ここだよ」と示すのが難しかったりと、何かと苦戦しました。また、宿題も算数や国語だけでなく理科・社会、或いは道徳や生活などまで幅広く出ている、全てには対応できませんでした。とはいえ、優先順位をつけて、毎日決まった時間に学習を積み重ね、できるものを提出していくことで、一定の学習効果をあげることができた上に、ずっと学校が休みでともすれば乱れがちな子どもの生活習慣を整える一助にもなりました。ご協力頂いた講師・ボランティアの方々、学校の先生方のおかげです。

6月から学習支援のメイン会場であるふたば国際プラザが再開し、幸い毎週土曜日の学習支援が行える状況になりました。感染症対策を取りながら、対面で教える利点を活かして引き続き個別の支援を行っています。小学校では遅れを取り戻すために急ピッチで授業が進むと思いますが、それに順応していくのも容易でないことが想像されるため、より一層各自の進捗、理解状況に応じて学習支援を行っていかねばならないと感じています。引き続きご支援・ご協力の程宜しくお願い致します。(大石 貴之)

■■■ グループホーム ハナ 小規模多機能型居宅介護 ハナ■■■

◆コロナウイルスの影響を受けて

今年は、コロナウイルスの影響で、日常を送りながら、非日常を過ごしているような状況にあります。グループホームでは、最初に神戸市で感染者が出た段階で、ご家族様の面会を制限し、利用者の外出も控えめました。小規模は事業を継続しましたが、自粛をされる利用者が一定数おり、長い利用者で4カ月ほど通いの利用をやめて、家でこもっておられます。

その後、終息が見込めない中、グループホームでは、6月初めから玄関先で、ソーシャルディスタンスをとりながら面会をしてもらうようにしました。神戸市の指導は「対面での面会を避けて、オンラインで面会を」というものでしたが、なかなかライン電話等の操作など、ご家族様も難しいようでした。6月末に神戸市から、十分な感染対策をとったうえで面会の許可が出ました。ただ、感染者が全国的に増えている状況をふまえ、7月13日から、1階の居室を一室ですが、面会室として開放して(ご家族様は外から出入り)、そこで面会という形を予定しています。

また、小規模も利用を控えられていた利用者が6月中旬ごろから徐々に通いの場に戻って来られました。今まで、訪問でフォローをしてきましたが、家でこもっていた時期が長かった為か、身体状況の低下が見られます。

現状、このような形で、施設職員一同、感染のリスクを感じながら、日々仕事を続けています。幸いなことに、感染者は出ていません。

こうした非日常を送る中で、家族さんも利用者様の状況が見えないため、心配をおかけしていることと思います。そこで、少しでも、利用者様が施設内で元気に楽しく過ごされている様子をお伝えできればと思い、5月

からハナ通信を始めました。若い職員が、いろいろアイデアを出し、楽しい紙面を作ってくれています！屋内での活動内容や職員紹介、施設からのお知らせなど、写真付きで掲載しています。職員3人の心意気を次にあげましたので、是非、広報担当の3人とハナへの応援よろしくお願いします！頑張ります！！

（施設長 森 佳緒里）

◆ハナ通信について

小規模多機能・グループホームハナにて毎日のように行われているレクリエーションやスタッフが工夫を凝らし行われるイベントの様子を、利用者のご家族に伝えたいと思い発行に至りました。

皆様に親しみを持っていただけるように記事を手書きにしたり、スタッフ紹介や近況のご案内を載せています。これからも、頑張っ作っていきます！！

（木谷 総一郎、政井 純、森本 奈津子）

■■■ ふたば国際プラザ ■■■

◆ふたば国際プラザの運営を再開しました。

6月2日より、感染症対策のルールを設けた上でふたば国際プラザは運営を再開しました。6月の一か月間は、日本語教室などの事業と会議スペースの予約利用のみ再開し、フリースペースの利用は引き続き休止といった限定的な運営になりました。また、レイアウトも普段と違い、個別のブース型にするなど工夫を行ってきました。そのような制約がある中ですが、3月から3か月開いたブランクを経ても、利用者の皆さんが徐々に戻ってこられ、大変うれしく感じています。皆さん感染症対策に気を付けながら、当プラザを活用頂いています。また新たな日本語教室の申し込みや会議スペース利用の問い合わせなどが増えており、休んでいた間に要望がたまっていたかのようで、拠点としての役割を感じています。

7月からはフリースペースも再開する予定であるほか、ふたば学舎2Fの一部屋をふたば国際プラザの「多目的活動スペース」として新たに取得し、活動の幅を広げる予定です。無料で各国の映画が見られる「ヒューマン・シネマ上映会」など、魅力的な活動も予定しています。多くの皆様に活用頂けるよう、引き続き事業運営に取り組んで参ります。 （大石 貴之）

◆しんさくら教室の農園活動

6月から、ふたば学舎の農園をお借りして、野菜を育てています。第三国定住ミャンマー難民の方の日本語教室「しんさくら教室」で学習されている方に管理してもらって、ミャンマー出身の方がよく炒め物料理などで使うクエン酸たっぷりの葉「チンバウン（英名：Roselle）」などを育てています。

チンバウンの酸味のある葉っぱは、スープに入れたり、海老や豚バラなどと炒めたりすると美味しいそうです。

今はまだ15cmほどですが、2メートルほどまで大きくなり、赤い実ができます。この赤い実は「ハイビスカスティー」の素で、沖縄では塩漬けにして食べられています。

育ったらきっと誰かが美味しい料理をごちそうしてくれるだろうということを期待しつつ、毎日成長を楽しみに水やりをしたり、眺めたりしています。（志岐良子）

■■■ ハナの会 ■■■

◆다시 돌아왔습니다!

5月から12年ぶりにハナの会に戻ってきました！鄭秀珠（ちょん・すじゅ）と申します。よろしくお願いします。

以前、多くのハルモニたち（韓国出身のおばあさんたち）と楽しい時間を過ごしたので、再びここで働けることを嬉しく思っています。

勤務するなり、このコロナ禍で、利用者もスタッフもマスク姿で手指消毒、手洗い徹底、体操はDVD、カラオケは取りやめ、座席は空間を空けて、と制限がある中での活動で、利用者のお顔も半分しか見えないなかで

(笑)、ようやく顔と名前が一致してきました！

この間、覚えたあいさつは、ベトナム語でのこんにちは！とありがとう！の言葉。特に木曜日には、ベトナム人利用者が多くいます。ドミノという遊びをしながら、自分たちの母語で話し、昼食もベトナムの食事を召し上がられます。ベトナム人スタッフも心強いし、韓国人の利用者とお互いの国のあいさつを何かを確認しあったりもする姿も見られます。彼らがなぜ日本にいるのか、を聞くと、大変な思いをして神戸にいることを少し知りました。そして、国も習慣も言葉も異なるなかで、子どもを育ててきた強さや逞しさを持っている風貌です。

すべての利用者と近くにいながらもなかなか出会えなかった方たち。そんな彼らと会えたのは、そうとうな縁があったのかも？と思ったりします。

12年前、理事長は、「きっと10年後には、スタッフも利用者もいろんな国の人が集まり、いろんな言語が飛び交う中で仕事をすることになるだろう。それがハナの会の将来像だ。」と話されていましたがその通りになっていました。驚くぐらい介護保険制度も変わり、業務も忘れていた私ですが、丁寧なスタッフと利用者のユーモアと優しさに支えられながら過ごしています。これからもよろしくお願いします。

■■■ KFC中国帰国者支援事業 ■■■

◆KFC帰国者新長田交流会を再開しました。

KFC帰国者新長田交流会は3月から3か月間休止していましたが、6月から再開に至りました。それまでは月に2回ほど参加者に手紙を出して、近況を伺ったり日本語教材を提供したりフレイル予防体操の資料を提供したりと、いろいろと工夫をしてきましたが、やはりずっと家にこもっていると、孤独感を高め、地域やコミュニティとのつながりをもてないため、再開を心待ちにしている方が多かったようです。再開を発表してからは、以前より人数が少なめですが、近隣の方を中心に少しずつ交流会に戻ってきて活動しています。事業管轄の神戸市や明石市と相談して感染症対策を取りながら、日本語教室や太極拳などを実施しています。今後也十分に注意して、交流会を実施していきます。 (大石 貴之)

■■■ 今後の予定 ■■■

◆今後の予定
■ふたば国際プラザ
ヒューマン・シネマ上映会
第9回 7月31日(金) 18:00～(106分)
「グレイテスト・ショーマン (THE GREATEST SHOWMAN)
(2017 アメリカ映画)」

テーマ「ブラックライブズマター運動に連帯して」
第10回 8月7日(金) 18:00～(134分)
「それでも夜は明ける-12Years a Slave-
(2013 アメリカ映画)」
第11回 8月28日(金) 18:00～(128分)
「グローリー明日への行進- Selma-
(2014 アメリカ映画)」